

大田原市高齢者 ほほえみセンター について



高瀬 重嗣 議員

質問…開設20年目を迎えるが、現在の運営状況について伺う。

答弁…利用延べ人数は、年々増加の傾向にあり、平成28年度は24カ所全体で、前年度比13・6%増の6万7863人の利用があった。今後も高齢者の社会参加を視野に入れ、介護予防拠点施設としての活用を促していきたい。

質問…ほほえみセンターと見守

り隊について、両事業の一体化、または見直しの考えは。

答弁…利用者、支援者がともに高齢者で、どちらも住みなれた地域で自立した生活が送れるよう支援していくという点で、同じ目的を持っている。またそれぞれの事業の利用者、支援者が重複している場合もある。連携を図りながら、協力体制を構築していく必要が出てきたと思う。

質問…ほほえみセンター事業の民間委託について、市はどのように考えるか。

答弁…今後ますます多様化する高齢化社会を迎え、福祉全般を一体的に進めていく必要があることから、民間委託についても視野に入れ、高齢者ほほえみセンター管理運営委員会や関係機関、団体と協議をしていく必要があると考えている。

一般質問



菊池 久光 議員

中田原工業団地への 資生堂進出について

質問…進出決定に至るまでの経緯について伺いたい。

答弁…資生堂では、国内外より高品質なメイドインジャパン製品に大きな需要が拡大していることを踏まえ製造工場の建設が急務となっており、国内で候補地を調査していた中、首都圏においては中田原工業団地が最終候補地としてあげられ、全国数カ所に絞られた候補地の中から

多様な立地条件や環境等を精査した中で大田原市を最終的に決定していただきました。本市のこれまでの取り組みや市長自らが先頭に立ち情報発信を行う姿勢が産業界のどこかで本市の評価として伝わり、新工場建設のタイミングとも合致して、今回の決定に少なからず影響を与えたのではないかと考えます。

質問…進出決定に大きく影響を

与えた大田原市の魅力は何か。

答弁…震災のリスクが少ない。大都市からのアクセスが良い。大学や高校も多く人材確保がしやすい。最先端企業が集積している。環境や水などもPRしてきました。資生堂が立地を検討する過程の中で、従業員の住環境や子育て環境も調査されており、決定に当たっての要因の一つではと考えています。